

島根県大田市および出雲市で確認した外来種マツヘリカメムシの記録

皆木 宏明*

Record of alien species *Leptoglossus occidentalis* (Hemiptera, Coreidae) in Oda-city and Izumo-city of Shimane Prefecture

Kohmei Minagi

1. はじめに

島根県大田市と出雲市で外来種のマツヘリカメムシ *Leptoglossus occidentalis* Heidemann (カメムシ目ヘリカメムシ科)を確認したので報告する。

マツヘリカメムシは体長約20mm, 体は全体が赤褐色や茶褐色, 後脚脛節にオール状に広がる葉状片をもつのが特徴である(図1)。本種は幼虫, 成虫ともにマツ科樹木の針葉や球果, 種子を吸汁し, 秋季には成虫が越冬する場所を求めて樹皮下などの隙間やときには家屋内へ移動し, 冬季は成虫越冬する習性があることが知られている(McPherson et al., 1990)。

本種は北米原産の外来種で, 日本国内では2008年に東京で確認されたのが最初とされ(石川・菊原, 2009), その後東日本を経て国内各地へ分布を拡大していた(鶴ら, 2020)。

中国地方では, 2019年10月に鳥取県東部と島根県松江市内で相次いで確認されたのが初記録となっている(鶴ら, 2020; 森本, 2021), 島根県内では翌年の



図1 マツヘリカメムシ

2020年にも松江市内の別地点で確認されている(野津ら, 2021)。

2. 確認記録

a. 大田市での確認状況

今回, 松江市から直線距離で南西に約55km離れた島根県大田市三瓶町の三瓶山の中腹において, 2020年秋季に本種を複数確認し, 翌年の2021年にも多数確認した(表1)。確認した個体数は2年間で計49個体になる。確認場所はいずれも大田市三瓶町にある三瓶山北の原キャンプ場管理棟及び隣接した島根県立三瓶自然館と国立三瓶青少年交流の家の建物で, 確認方法は筆者らが目視で確認したものである。本種の確認状況は, 主に外壁に止まっていることが多かったが, 一部は建物内で確認した。

確認した場所のうち, 北の原キャンプ場と三瓶自然館は年間を通して観察しているが, 本種を確認した月は, 4月および10~12月の間のみで特に11月が多かった。確認した個体はすべて成虫であり, また複数確認した日でも個体が1ヶ所にまとまっていることは稀で, 1匹ずつ離れて壁面にとまっていることが多かった。

また, マツヘリカメムシを確認した秋季には同じ建物の外壁で, マツヘリカメムシと同様に成虫越冬する習性を有する他のカメムシ類も複数見られたが, マツヘリカメムシの確認数はその他のカメムシ類と比べても決して少なくはなかった。確認した他のカメムシ類は, サシガメ科のオオトビサシガメ *Isyndus obscurus*, カメムシ科のクサギカメムシ *Halyomorpha halys*, クヌギカメムシ *Urochela*

* 島根県立三瓶自然館, 〒694-0003 島根県大田市三瓶町多根 1121-8

The Shimane Nature Museum of Mt. Sanbe (Sahimel), 1121-8 Tane, Sanbe-cho, Ohda, Shimane, 694-0003, Japan

westwodi, ツマジロカメムシ *Menida violacea*, そして外来種のキマダラカメムシ *Erthesina fullo* である(図2)。キマダラカメムシは県内の平野部ではすでに普通種となっているが(皆木, 2015; 大浜, 2020), 三瓶山ではまだ稀で, 2018年に三瓶町志学で採集された標本を1個体三瓶自然館で収蔵(未発表)してい



図2 キマダラカメムシ(左)とマツヘリカメムシ(右)

るのみで, 三瓶町北の原では初記録となる。

b. 出雲市での確認状況

さらに, 2021年12月には松江市から直線距離で西に約35km離れた島根県出雲市にある島根県立浜山公園(出雲市大社町北荒木)にて, マツヘリカメムシ2個体を確認した。いずれも公園内にある建物の外壁にとまっていた。浜山公園は面積54.9ha, 最大標高40mの浜山砂丘に位置し, 砂丘地内は野球場や体育館等のスポーツ施設があり, 江戸時代以降に植林されたクロマツ林に覆われた緑地公園である。

c. 天敵

大田市において, 営巣していたオオヒメグモ *Parasteatoda tepidariorum* に捕獲されたマツヘリカメムシの死骸1個体を1例確認した(図3)。鳥取県での確認報告(鶴ら, 2020)でも2019年10~12月の間の確認記録のうち, クモ類の円網にかかった本種が複数地点で確認されており, マツヘリカメムシが越冬場所への移動中にクモ類に捕獲される事例は少なくないと思われる。

表1 マツヘリカメムシの確認記録(2020-2021)

年	月日	個体数	確認場所	発見者	確認状況
2020	11月8日	1	三瓶山北の原キャンプ場管理棟	皆木宏明	外壁
	11月11日	6	三瓶山北の原キャンプ場管理棟	皆木宏明	外壁
	11月12日	1	三瓶山北の原キャンプ場管理棟	皆木宏明	外壁
	11月13日	2	三瓶山北の原キャンプ場管理棟	皆木宏明	外壁
	11月19日	2	三瓶山北の原キャンプ場管理棟	皆木宏明	外壁
	11月20日	1	島根県立三瓶自然館	皆木宏明	建物内
	11月25日	1	三瓶山北の原キャンプ場管理棟	皆木宏明	外壁
	11月26日	1	三瓶山北の原キャンプ場管理棟	皆木宏明	外壁
	12月3日	1	三瓶山北の原キャンプ場管理棟	皆木宏明	外壁
	2021	4月2日	1	三瓶山北の原キャンプ場管理棟	皆木宏明
10月8日		1	三瓶山北の原キャンプ場管理棟	皆木宏明	外壁
10月25日		1	三瓶山北の原キャンプ場管理棟	皆木宏明	外壁
10月30日		1	三瓶山北の原キャンプ場管理棟	皆木宏明	外壁
11月4日		2	三瓶山北の原キャンプ場管理棟	皆木宏明	外壁(クモに捕獲された死骸1個体含む)
11月5日		6	三瓶山北の原キャンプ場管理棟	皆木宏明	外壁と建物内
11月13日		7	三瓶山北の原キャンプ場管理棟	皆木宏明	外壁
11月17日		3	三瓶山北の原キャンプ場管理棟	皆木宏明	外壁と建物内
11月19日		3	三瓶山北の原キャンプ場管理棟	皆木宏明	外壁
11月26日		1	三瓶山北の原キャンプ場管理棟	皆木宏明	外壁
11月27日		4	三瓶山北の原キャンプ場管理棟	皆木宏明	外壁
11月27日		1	国立三瓶青少年交流の家	吉本孝志	建物内
12月1日		1	三瓶山北の原キャンプ場管理棟	皆木宏明	外壁
12月8日		2	島根県立浜山公園	皆木宏明	外壁
12月10日		1	三瓶山北の原キャンプ場管理棟	皆木宏明	建物内



図3 オオヒメゲモに捕獲されたマツヘリカメムシ

3. 考 察

今回の本種の確認事例は、時期や状況から判断しなくても越冬前もしくは越冬直後に建物の外壁やその周囲に飛来してきた個体を確認したものと考えられる。マツヘリカメムシは、日本国内ではアカマツ *Pinus densiflora* やクロマツ *Pinus thunbergii* を寄主植物として利用していることが知られている（前原，2011）。三瓶山中腹で今回確認した施設の周囲にはまとまったアカマツとクロマツの林があり、今回、2020年、2021年と続けて三瓶山で多数本種が確認されたことから、すでに三瓶山で定着繁殖している可能性が高いと思われる。その場合、繁殖時期の夏季には卵や幼体がマツ科樹木の枝先で見つかるはずだが、いずれのマツの木も樹高が高く、枝先で本種が繁殖しているのかどうかは地上からは確認できていない。春から夏にかけては地上付近では全く見かけないことから本種は樹上性が強く、繁殖期はもっぱら樹上におり、越冬時期に地上付近へ降りてくるのだろう。2020年時点での各都道府県での初記録をまとめたデータ（鶴ら，2020）を見ても、ほぼ越冬前後の間に集中しており（全20件中、3月と9～12月の間で計19件）、秋季に発見されやすいという本報告と同様の傾向が伺えた。

三瓶山にはいつどこから侵入したのかは不明だが、

確認した場所は筆者が以前から、同じ場所を観察しているにも関わらず、2019年以前に本種を確認したことはなかった。2020年秋季から突然複数目撃されるようになったことから、ごく最近になって三瓶山に侵入し、定着したものと考えられる。

今回確認した大田市内の場所は三瓶山中腹の標高570m～600m地点にあり、冬季にはまとまった積雪もある山間地だが、本種はすでに青森県まで分布を北上させていることから（有本，2022）、三瓶山でも生息は可能なだろう。また、本種は飛翔能力に優れ、移動分散能力が高いとされていることや（山田，2015）、出雲市内でも確認されたこと、これまでの全国的な分布拡大状況から判断して、島根県内でもマツ林を有する環境であれば、平野部から山間部まで広範囲に生息域を広げる可能性があり、今後の動向に注意する必要があるだろう。

引用文献

- 有本 実 (2022) 秋田県と青森県におけるマツヘリカメムシの記録. 月刊むし2月号 (612号) : p.50
- 石川 忠・菊原勇作 (2009) 北米産ヘリカメムシ *Leptoglossus occidentalis* Heidemann の日本からの初記録. 昆虫ニューズ, 12 (3) : 115-116
- 前原 論 (2011) 栃木県で採集したカメムシと甲虫について. インセクト, 62 (1) : 56-59
- McPherson, J. E., R. J. Packauska, S.J. Taylor and M. F. O'Brien (1990) Eastern range extension of *Leptoglossus occidentalis* with a key to *Leptoglossus* species of America north of Mexico (Hemiptera: Coreidae). Great Lakes Entomol., 23: 99-104
- 皆木宏明 (2015) 島根県大田市内で確認された外来種キマダラカメムシの記録. 島根県立三瓶自然館研究報告 (13), 65-67
- 宮ノ下明大・曲山幸生 (2014) 茨城県つくば市において冬季に建物で発見された マツヘリカメムシ *Leptoglossus occidentalis* ペトロジー 29 (1) : 23-24
- 森本涼介 (2021) 島根県におけるマツヘリカメムシの記録. ホシザキグリーン財団研究報告第24号. p.102
- 野津幸夫・安達和宏 (2021) 外来種マツヘリカメムシを松江市菅田町で撮影・確認. すかしば No.68. p.51
- 大浜 祥治 (2020) 島根県のキマダラカメムシ, 2019年の分布調査. すかしば (67), 33-35, 2020-03
- 鶴智之・大生唯統・田村昭夫 (2020) 外来種マツヘリカメムシ *Leptoglossus occidentalis* の鳥取県からの初記録と分布の拡大状況に関する考察. 鳥取県立博物館研究報告, 57:37-47
- 山田量崇 (2015) 外来陸生カメムシ. 昆虫と自然, 150 (6) : 12- 15